

保全 列島 への課題

わが国、国土のすがた

⑤ 積雪寒冷地に暮らす

そもそも日本列島は、外国の大都市の冬の気温地球規模で見ると比較的に、日本の北海道や東北緯度の低い所にあり、冬の冬の気温と比べての寒さという意味でいえる低いが、一方で、札幌やば、わが国より寒い地域 青森のように、豪雪地帯は多い。サンクトペテルブルクに大都市が存在しているブルク(ロシア)、モン 国はまずない。トリオール(カナダ)、 積雪の深さではなく、ストックホルム(スウェーデン)など、これら諸 降雪量を単純に足して、存在している。東京や大阪など太平洋

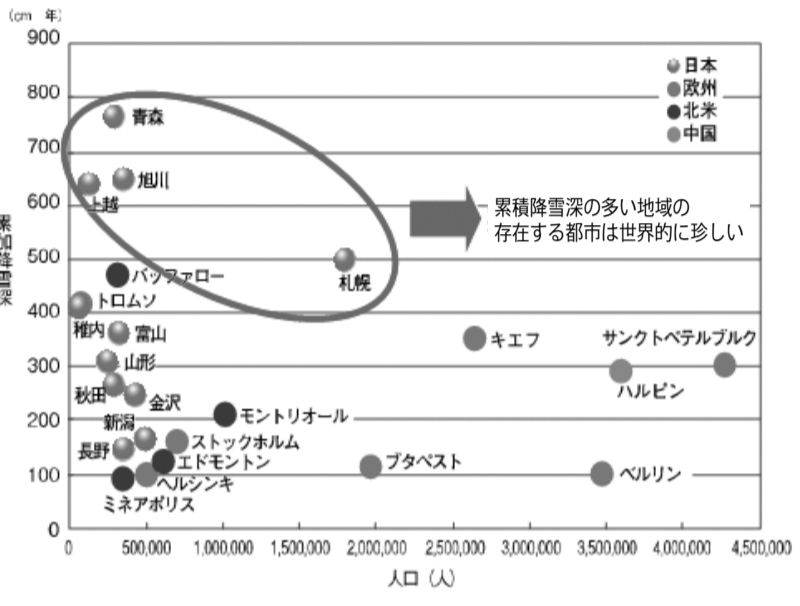


国土面積の約6割が積雪寒冷地域

冬期の豪雪

国民生活に大きな影響

雪国に多くの人々が住む 世界でもまれな日本



防雪施設のスノーシェッド



除雪車による除雪作業



ロードヒーティング整備済みの道路

側の地域に暮らさず、甚大な被害が発生していることと実感。たことは記憶に新しい。は乏しいが、日 被害や影響を受けた人の多くは積雪寒冷地域に暮らす人々である。東京をはじめ都会から帰省冷地域にある。愛知、大阪、兵庫、岡山、そこには全人口の約20%の人々が暮らしている。その一方で、太平洋側の約4割の人口が暮らしている。この積雪寒冷地には、流が北上して流れ、シベリア寒気団からの風が吹いてくるという冬の気象条件を前提とすれば、国土面積の約6割を占める積雪寒冷地域に積積る。この年末・年始、記録的な大雪が山陰地方を中心に日本海側を襲い、交通断、集落の孤立、漁船の側で雪を降らすのは当然の摂理である。

大分「童話の里くす」

九州道の鳥栖JCTかいこともあり、扇状に旋回する車庫は遠くからみても目立つ。すでに長い距離にある玖珠ICで降りると、IC出口正面に道の駅「童話の里くす」がある。立ち寄って観光情報で目にとまったのは、レトロな鉄道の機関庫を紹介した綺麗なパンフレットであった。ミラノ・スカラ座の歌劇場にも似た湾曲したラインが美しい。

豊後森のレトロな機関庫



このようなタイプの機関庫は扇形機関庫といわれ、日本に数棟しか残っていない。有名なのは京都にある梅小路の機関庫だが、そのような車庫が九州・玖珠の豊後森駅にもあるという。道の駅から豊後森駅までは国道387号で5分とからならみ。ちょっと足をのばしてみようと思えば、周囲に高層建築物がない。

車台の周辺は草が刈りこまれ、秋のコモスが風に揺れていた。地元の人々の手による行き届き、逆に円形車庫の良さを浮き上がらせているように思えた。豊後森駅に由布院へ向かうリゾット列車が入線してきた。ディーゼルの音が、煙をたなびかせるように尾を引きながら走るのどかさだ。この路線(久大本線)は非電化だが観光客向けには、九州随一の路線になっている。ここから由布院までは厳しい勾配になってゆく。かつて豊後森の役目は、その中継地点としてエネルギー、水の補給源となっていたという。蒸気機関車の時代には「顔」の向きを変えるため絶対必要であった回転台も、動力がディーゼル機関や電気機関となった。入れ替える必要がなくなった。技術方式が変わったことにより、それまでのインフラが一転して不要になる。鉄道界で象徴的な出来事がある。日本には数力所しか残されていないほどの徹底した淘汰は、時代の趨勢といえる。

秋の鉄道まつりが開催された。ニュースで伝え聞いたところによると、錆びついて動かなかった車台が、綺麗に手入れされたことにより、人力でも回せるようになったという。国道愛好家・松波成行